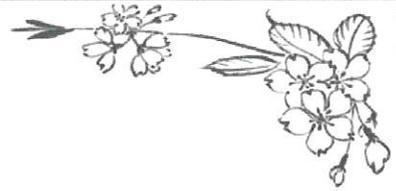


PTA会報
NO.29

さくら



編集・発行 2021年 3月 8日
神河中学校 PTA文化・研修部

神河中学校 10回生のみなさん

卒業おめでとうございます！

<USJにて撮影>





新しい時代へ

PTA副会長 山名 真由美

今年度は、長引くコロナの影響で子供たちの生活は、すっかり変わり終息が見えないまま一年がたとうとしています。

毎年あたりまえにあった行事が一つずつ中止にするべきか、どんな対策をして行うべきかを考えなければいけなくなりました。役員と先生方で話し合う機会も多かったのですが先生方の、できるだけいつも通りの事を経験させたい、楽しみにしていた修学旅行先が無理なら、同じぐらい楽しめる場所に連れていきたいという想いが強く、いつもギリギリまで考え調整してくださっていたことに感動しました。いい先生方に恵まれた生徒たちだと、あらためて思った一年でした。今年度の役員をさせていただけてよかったと思っています。

コロナと共に生きていく新しい時代が、いろいろな事を諦め、たくさんの我慢をした子供たちにとって、人に優しくチャンスに恵まれる世界になるよう心より祈っております。

最後になりましたが、保護者の方にとっても我慢の一年だったと思いますが、たくさんご協力いただき感謝しています。本当にありがとうございました。



一年間を振り返って

PTA副会長 高橋 美也子

PTA役員、副会長という大役を任せられ、不安で一杯でしたが、皆様のおかげで、無事に終えることが出来ました。

2020年は、新型コロナウイルスの世界的な蔓延により、様々な制限を強いられた一年でした。どんな一年になるんだろうと、終わりの見えない自粛生活にとっても暗い思いしかありませんでした。

新学期は長い休校から始まりました。外出もできず、友達にも会えない毎日、子どものストレスを日に日に感じる毎日でした。行事が次々と中止になり、夏休みも短縮されましたが、それでも何とか例年とは大幅に違う形で開催された体育祭は、笑顔を取り戻し、元気に躍動している姿に少し安堵しました。コロナ対策を考慮しながらの合唱コンクールでは、クラスそれぞれの頑張りを感じながら、楽しい時間を過ごせました。

2021年を迎え、今年度も残すところ僅かになりましたが、一日も早いコロナの終息を願いながら、一人ひとりが悔いのない中学校生活を送れるように寄り添っていかれたらと思っています。

最後になりましたが、PTA役員の皆様、校長先生をはじめ先生方、1年間ありがとうございました。いい経験をさせていただきました。



感謝の気持ち

神河中学校教頭 戸川 勝

本校に着任して、はや1年がたとうとしています。今から約30年前に新任として勤務した地に、再び帰ってくることとなり、感慨深く4月を迎えました。若い頃に失敗ばかりした地で、少しでも恩返しができればと意気込んでいましたが、この1年はコロナウィルス感染症との戦いに明け暮れ、なかなか思うような取り組みもできず、申し訳ない気持ちです。

このようにコロナ禍の難しい局面ではありましたが、数々の学校行事を無事に運営でき

ましたことが何よりの成果だったように思います。学校運営は行事だけではありませんが、開催の是非について何度も話し合いを繰り返し、無事にやり遂げることができましたのも、ひとえに保護者の皆様のご理解とご協力のおかげと感謝しております。

さて、私事ではありますが、私には3人の子どもがおります。その子どもたちが中学生の頃、私はあまり「勉強しろ！」とは言わないようにしていましたが、それでも「テストでいい点数をとってほしい」と願い、結果がいい順位であれば喜んでいました。そしていま、3人は高校を卒業し、生まれ育った故郷を離れようとしています。ふと思うのは、「子育てってなんだろう」と言うことです。テストの結果に一喜一憂していたことが、現在とどうつながっているのだろうと考えます。もちろん、目の前にある課題に一生懸命に取り組むことは大切なことだったと思います。否定するものではありません。しかし、同じように大切なことが他にもあるような気がしてなりません。

神河町も人口の減少が言われています。今の時代ですから、成人した子どもが親と同居して暮らすことは少なくなっています。それでも、親元を離れて暮らす子どもたちが、故郷のことを思いながら過ごしているのかどうか。単純な言葉ですが「気づかひのできる」人へと成長できているかどうかだと思えます。わが家がそうだったのですが、勉強のことで親子喧嘩が絶えなくないですか。今になって、「人を思いやる気持ち」の育成を、親子で体験していくことの大切さを感じます。

先の見えない社会だからこそ、目に見えない心を育てることの大切さを感じるこの頃です。



胸を張れる学年になった！

第3年生主任 上月 里香



10回生の最終学年は、2か月の休校から始まりました。この先どうなるのか？不安を抱えてのスタートでした。登校が再開しても、頑張ってきた部活動の最後の舞台がなくなる。予定されていた修学旅行は延期。大きな行事だけでなく、日々の生活でも友達とわいわい言いながら給食が食べられない。夏の暑い日でもマスクを着用しなければならない。とにかく昨年までの「普通」が通らなくなった一年でした。様々な行事を開催するにあたっては、保護者の皆様にもご心配をおかけしたり、我慢をしていただくことがたくさんありました。ご協力とご理解に感謝します。

そんな先の見えない学校生活でも、生徒たちは文句も言わずついてきてくれました。「何で？」という気持ちはきっとあったでしょうが、それよりも、できることに対して感謝の気持ちを持って過ごしてくれました。「胸を張れる学年になった！」これは、10回生の生徒から出た言葉です。

先日、卒業を前に1年生からを振り返る授業をしました。自分たちでもやんちゃでふざけていたと笑っていましたが、この1年で多くの生徒が自分自身も学年としても成長できた！と感じています。学年がまとまった。支え合える学年になった。協調性が育ち、学年が強い絆で結ばれている気がする。というような声がたくさんありました。そして、その中に先ほどの言葉がありました。もちろん、まだまだ甘いところもあり、はたから見れば、もっとしっかりと指導してよ。と思われることも多いと思いますが、生徒たちの成長を喜んでいる私がおります。

中学校を卒業し、慣れ親しんだコミュニティーから巣立っても、神河中学校10回生として、しっかりと過ごし、素敵な人物に成長してくれることを願っています。保護者の皆様も、地域の一員として、彼らを見守り続けてやってくださいますようお願いいたします。



「礼法指導」

2021年2月1日、姫路女学院高校の石本先生をお招きし、礼法を含めた面接での心構えなどを教えて頂きました

3年生



私は高校受験は一般なので面接は受けませんが、この先アルバイトをしたり、大学受験をしたり、就職をする時にも必要になってくる礼法を教えていただくことができ良かったです。特に、私が心に残ったことは合否が開始30秒で決まるということです。でも確かに自分が面接官だとしたら、第一印象が良い人の話は積極的に聞こうと思うし、記憶にも残りやすいだろうなと思いました。質問の答え方もより詳しくより、細かく答えた方がいい印象を与えられるし、熱意も伝わって覚えてもらいやすくなるんだなと思います。私は今までお辞儀の種類があるということや、椅子への座り方など、知らなかったことがたくさんありました。ドアをどのくらい開けるか、移動の仕方など細かいことだけど、とても大切なことを今回学ぶことができ、本当に良かったです。今日教えてくださったことをしっかり覚えておいて、将来面接を受けるときに思い出して活かしたいと思います。



面接指導を受けて、色々な事を学ぶことができました。礼の種類や使い分けを初めて知りました。座ったときに少し前に姿勢を傾けることによって、面接官への熱意が伝わるというコツも知ることができました。僕は、礼法というものはよく知っていると思っていたけど、実は全く知っていなく、礼法はたくさんあるんだなと思いました。そして、面接官はよく見ているということもわかりました。将来面接する時がくれば、今日学んだことを是非使おうと思いました。姿勢だけでなく、表情、身なりの重要も気づくことができました。普段先生が、身なり身なりと言う理由がわかりました。いつもやってないことは、絶対面接ではできない、身なりは人を表すということ、全て日頃から直していきたいと思いました。

今日の「面接試験に向けて」を受けて、いろいろと勉強になりました。私は今回の受験で面接とかはしないけれど、大人の時絶対あるし、今後にも絶対活かせるだろうと思い、聞いていました。まず、私がとても苦労したのは、やっぱり椅子のかけ方、歩行、姿勢です。私は特に姿勢が一番苦労します。絶対どんどん伸ばしててもくずれてくるだろう、と自分でも思うくらい苦手です。後、歩行です。ゆっくりしたらいいけど、はやかったら出来ません。だけど、本番はそんなこと言ってられないのでなくちゃいけません。だから、言葉の使い方も、礼の仕方全部石本先生が言っていた「練習」なんだなあとと思いました。練習して、苦手なことも全部やりこなして、面接官に合格をもらえるんだ！と改めて実感しました。石本先生が言っていた「練習は裏切らない」を心に入れて頑張ろうと思いました。本当に今日は勉強になりました。ありがとうございました。

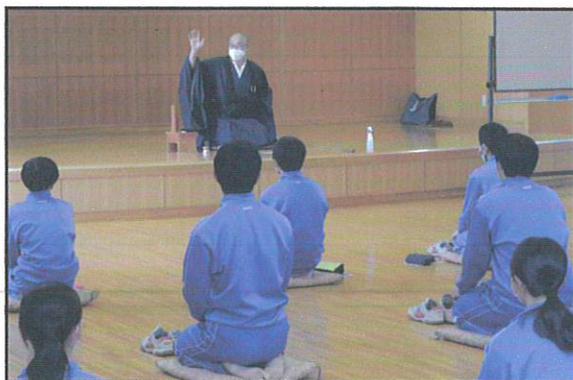


3年生「坐禅体験」を終えて

2021年1月27日、受験(検)前の落ち着かない心を整え、自分を見つめ直す機会にするために行いました。市川高校の築山先生をお招きし、坐禅に関わる話をしていただきました。短い時間でしたが、静寂で、心落ち着く時間を過ごすことができました。

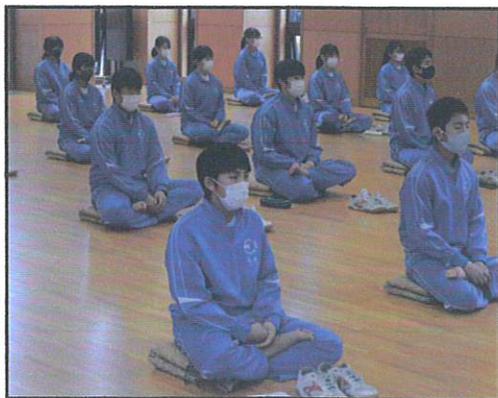
坐禅体験

普段あまり集中力のない私ですが、とても集中して心を落ち着かせることができました。普段坐禅はしないのですが、やってみるとすごくリラックスできたので、家でもぜひやりたいなと思いました。坐禅はよく心が落ち着かなくなる私にとってもピッタリだなと思います。もっと早くから出会いたかったなと思うくらいです。受験にコロナ、とても大変で心身ともに疲れてきていますが、坐禅で心を落ち着かせ頑張ろうと思います！短い時間でしたが、本当にあっという間でした。そして、たくさん学ぶこともあり、本当にいい体験だったと思います。ありがとうございました。



今日の坐禅体験で1番心に残っているのは、産まれた時に息を吐いて、死ぬときに息を吸うということです。「息を引きとる」という言葉は知っていたけど、言葉の由来までは聞いたことがなかったので、産まれた時から当たり前前にしている呼吸について知ることができて良かったと思いました。正しい呼吸や、姿勢について知って、坐禅をしたときとても落ち着いた気持ちになったので、気づいたときに今日教えてもらったことを思い出して、やってみようと思いました。

私は今日の坐禅体験を通して、呼吸の大切さ、吐くことの大切さを知りました。1回5分間坐禅をしてみて、足が痛くて少しつらかったけど、心が落ちついた感じがしたのがすごく印象に残っています。坐禅をする前に足を組んだ時や、築山さんの話を聞いているとき、自然と姿勢が良くなりました。普段普通に呼吸をしているけれど、それはありがたいことで大切なんだなと思いました。3回目の坐禅は完全に心が落ち着いた感じになりました。これから緊張したときは、今日のことを思い出して実践したいです。今日はありがとうございました。



スキー教室

スキー教室

“やっと行けました…”

in

峰山高原スキー場ホワイトピーク

(2021年2月16日実施)

2年生



スキーは、1回しかした事がなくて、出来るか不安でした。前した時はとても怖くて全然出来なかったので、今日のスキーの最初は、怖い思いでいっぱいでした。しかし、スキー板をはいて、ゆっくり歩いたり、短い距離から滑ったりして、だんだん慣れてきてあまり怖くなくなりました。インストラクターの方に教えてもらって、滑れるようになりました。カニ歩きで進むのが難しかった



けど、わかりやすく教えてくださったので、出来るようになりました。班のみんなも上手になってきたので、リフトに乗って上に行きました。初級コースだったけど、意外と急な坂でした。ハの字にして止まるのが、難しくとても早いスピードで怖かったです。でも、ターンも出来るようになって、止まれるようになったので、とても楽しかったです。次、スキー場に行ったら、また挑戦しようと思いました。



前回にスキーに行った時よりも、だいぶ滑れるようになりました。初めは止まるのが苦手だったが、それも出来るようになりました。楽しかったので、時間がたつのが早く感じました。リフトに乗るのが楽しかった。また、スキーを滑る時は気持ち良かったので最高の気持ちでした。スキー場が近くにあるのは、良いと思いました。長い間、スキーに行っていないので、また家族と一緒に行けたら良いと思いました。

スキー実習を終えて、最初はスキーウェアもダサいし、寒かったら学校にいた方が良いと思っていました。でも、実際にスキー場に行ってみると、雪もしっかりあり、きれいな景色で、風景をみても、楽しめるかなと思いました。最初の方は、本当に滑れないし、こけるし、勝手に滑ってしまって止まることもできないので、いろいろややこしいと思っていました。しかし、途中からだんだんと止まることができ、滑れるようになり、笑いあいの1日でした。次は、もっと滑れるようになって、楽しみたいです。



スキー実習から帰ってきて書いてるので、とても眠たいです。今日スキー実習が終わって、自分ってこんなにスキーが出来たと思い、少し感動しました。中学1年生の時、残念ながら、行けなかったのが、今回スキーが出来たのは、とても嬉しかったです。前日からわくわくが止まりませんでした。最初、インストラクターの人に教えてもらったので、たくさんこけずに済んだので、助かりました。リフトに乗っている



時は長いなあと思っていました。初級・中級をやったけど、どちらも楽しかったので、実習途中になって、もっとスキーをしたいと思いました。スキーをしに行かなかったのはどうしてだろうとも思いました。他の班の子にもたくさん上手い子がいたので、その子らみたいに上手くスキーができるようになりたいと思いました。こんなに近くに、楽しめるスキー場があるのは、とても良いなあと思っていました。最後にスキー場にいた人たち、インストラクターの人たち、先生たちには本当に「ありがとう」という感謝の言葉しか出ません。

2年生「トライやるアクション」を終えて

コロナの影響で実施されなかった「トライやる・ウィーク」の代わりに実施された「トライやるアクション」。1日だけでしたが、地域の方々との交流を深めることができました。



活動内容 加納の歴史

トライやる・ウィークは、1年生の時からとても楽しみにしていた行事のひとつだったので、中止になったと知って、すごく悲しかったです。

でも、代わりに行われたトライやるアクションで自分たちの住んでいる地域の歴史を知ることが出来て、良かったです。自分が生まれ育ってきた地域なのに、知らないことだらけでとても驚きました。加納は小さい区だと思うけど、その中に、指定文化財や歴史的な絵、仏像など昔からの歴史を感じられるものがたくさん残っていて、すごいと思いました。物だけではなく、文化もありました。加納では、昔、獅子舞が演じられたと知りました。今は、やってないので、加納で行われていたと知ってびっくりしました。

トライやる・ウィークがなくなってしまって、とても悲しかったけれど、代わりに自分の住んでいる町のことを知ることができて、良い経験になったと思います。自分の生まれた地域の歴史的な物や行事を守っていられたらいいなあと思いました。

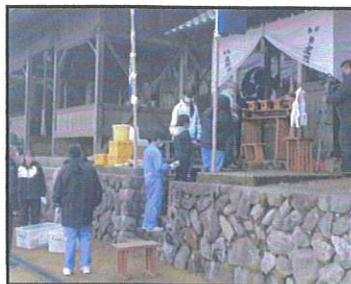


活動内容 えびす祭り参加(準備・片付け)

この地域の行事に参加してみて、いつも自分たちが何気なく行っている祭りの準備の大変さ、地域の人たちが、この祭りに込めている思いみたいなものが、わかったような気がしました。地域の人が、丁寧に指示をしてくださったり、この祭りの意味も教えてもらいました。トライやる・ウィークがなくなって「どうなるんやろ。」と心

配していたけれど、こんな形で実行する事が出来てすごくうれしかったです。いつも地域の人々は私たちのためにたくさんのことをして下さるので、今回のトライやるアクションもすごく感謝しています。私は今までこの祭りの準備や片付けもしたことがなかったので、すごく良い経験ができたと思います。

今、コロナ禍の中でいろいろな事が制限されて、自由に動けなかったり、大変な事がたくさんあったりする中で、このトライやるアクションが実行出来て、やっとひとつの行事ごとをした感覚がありました。地域の人に心からお礼を言いたいです。



活動内容 グランドゴルフ（茶話会）

トライやるアクションを終えて感じたことは、地域の人たちは、私たちを見てくれているんだなということです。朝や夕方に自転車で帰っている所を見たりして、どの家の子もだとわかるように、私たちの事を知ってくれていました。グランドゴルフの時には、打ち方やコツを優しく教えてもらいました。グランドゴルフのプレー中に、「良いとこにいったなとか、ちょっときつかったな」とか、毎回声をかけてもらい、楽しかったです。1時間半ぐらいの、ほのぼのと、ゆったりしたグランドゴルフの時間は、すごく幸せな気分になりました。茶話会では、近所のおじいちゃんやおばあちゃんが、昔やっていた部活の話など聞いて、とても楽しかったです。



トライやるアクションは、思っていたよりも楽しくて、良い時間になりました。これからも地域の人々に挨拶したり、関わろうとおもいました。美味しいお菓子やお茶を頂いてすごく楽しかったです。グランドゴルフは、是非またしたいです。

活動内容 ネギの収穫と出荷の手伝い

トライやるアクションを終えて、ネギの出荷までの工程を知ることが出来てすごく貴重な体験をさせてもらいました。最初は袋に値段のシールを貼り付けました。それが終わると、ネギを100g量り、テープでネギを束ねる作業をしました。ネギを100g量るのは、難しかったです。100gより軽いと100gになるように、ぴったりのネギを足さなければならないし、100gより重かったら、100gぴったりにするようにネギをとらなければならないので難しかったです。少しずつ慣れていってとても楽しかったです。次は、ネギを洗う作業もしました。とてもすごい勢いの水が出て、根をきれいにしていきます。最初は、どうやって洗えば良いか分からなかったけれど、慣れていくと早くおけるようになっていきました。とても綺麗になって、うれしかったし、楽しかったです。

ネギを洗ったり袋に詰めたり、野菜の収穫から出荷まで、こんなに大変だとわかりました。初めてこのような体験が出来て、とても楽しかったです。ありがとうございました。



1年生



2021年2月17日、中止になったスキー実習の代わりに学年レクを行いました。16グループの有志によるENGEI大会と大運動会で盛り上がりました。

学年レク

私は、ENGEI大会・大運動会をして楽しかったです。ENGEIでは、出演した人が自分が思っていた人と全然違うかったり、観客の人も拍手や手拍子などをしていたり



してよかったと思いました。自分も出演して緊張してちょっと怖かったけど、自分に勇気もでてよかったです。大運動会ではクラス全員で応援しあったり、精一杯競技ができていたりしてよかったです。この学年レクを通して、ENGEI大会では友達の知らなかった一面が見れて、大運動会ではクラスの中が深まってよかったと思いました。

スキーの代わりは何をするのか楽しみだったので、こういう企画を考えてくれて、とても感謝しています。また、こういうことをする機会があるなら、今度は僕が舞台の上でやってみたいなあと思いました。ENGEI大会だけでなく、大運動会もとても楽しかったです。負けたのは残念だったけど、楽しかったです。

スキーの代わりは何をするのか楽しみだったので、こういう企画を考えてくれて、とても感謝しています。また、こういうことをする機会があるなら、今度は僕が舞台の上でやってみたいなあと思いました。ENGEI大会だけでなく、大運動会もとても楽しかったです。負けたのは残念だったけど、楽しかったです。



ENGEI：自分は出る側で、すごく緊張した。手がふるえてしまいあまり練習よりはうまくいかなかったけど、自分の全力を出せたので良かったです。また、みんなが「よかったよ」とか色んなことを言ってもらって嬉しかった。

大運動会：負けてしまったけど、みんな楽しそうでもよかった。僕はしっぽとりの競技に出た。思ったより難しく、しっぽを取れずに終わってしまった。けれど楽しかったからいい思い出になった。

スキーが無くなったのは残念だったけど、素晴らしいレクができてよかったと思います。どのグループの芸もステキで、とても面白かったです。スキーも楽しいけど、こういうのもありだな～と思いました。またやってほしいくらいです。私も出演させてもらって、とても緊張しましたがいい感じに終わったので良かったです。〇〇〇(グループ名)のプリキュアの続きが見たいなと思いました。





今日は本当に楽しかったです。ENGEIの方は、みんなすごいなと思いました。私も出演したけど、大成功だったのでごくよかったです。みんな一人ひとりが一生懸命演技をしていたので、すごいなと思いました。私は、一生懸命できて、練習できていなかったところも出来たのでとてもよかったです。大運動会は、私はしっばとりに出ました。結果3組は

負けてしまったけど、最後まで一生懸命頑張っていたのでごくよかったです。今日は本当に楽しかったです。ENGEI大会の出演者も、実行委員の人たちもみんな頑張ったから成功したと思います。これからも、みんなでまた楽しいことをしたいなと思いました。

ENGEI大会も大運動会も、とても楽しかったです。それぞれのグループのENGEIもすごくて、みんな頑張ったんだなあと思いました。どのグループも笑えるものばかりで、たくさん笑いました。見る方も楽しいけど、人を楽しませる方が楽しいんだということが分かりました。大運動会では、みんながたくさん応援してくれて嬉しかったし、盛り上がったので良かったと思います。実行委員の人や、ENGEIに出てくれた人のおかげで、成功したと思うので感謝したいです。



文化・研修部のみなさん

3年間を振り返って

片山 博順

早いもので中学校3年間も終わろうとしています。身長、靴のサイズ、肩幅を見て、大きくなったなど感じる事が多くなりました。コロナ状況下においても、今、自分が何を優先にしなければいけないかと自分で判断・行動し、勉強・部活動・友達との交友と充実した学校生活を送り、家庭内においても発言・言葉に頼もしさを感じ、精神面でも大きく成長している事が感じられます。しかし、大きく心身共に成長していく中で、言葉数が減り、話しかけても一言しか返ってこない事があり、父親としては寂しいなど感じる事も増えてきました。私自身も、中学生時代は父親に対してこんな感じだったのかなと振り返る事があります。

こうして、成長してこれたのも学校生活においてご指導して頂いた先生方、たくさんの思い出を作ってくれた友達、またコロナ状況下で大変な時期にもかかわらず支えて頂いたPTAの皆様のおかげと心より感謝申し上げます。たくさんの感動と経験をさせて頂き、ありがとうございました。子供たちには残り少ない中学校生活を、目標において頑張り、楽しんでほしいと思っています。

子育てについて思うこと



香川 由貴子



正直なところ、子育てについて語れるほどきちんと子育てできていない私が、何を文章にまとめればよいのか。考えるだけで時間が経過し、とうとう締め切り日を迎えてしまった。そういえば、夏休みの宿題も最終日にならないと最後の仕上げができないのんびり屋で、父に懲りない奴だと呆れ顔で笑われていた。課題を仕上げる

ことができないと半べそをかいて助けを求めようとして、父の眼鏡の奥のまなざしは優しいようで決してそれを許すはずもなく、コツコツと取り組んでこなかった自分が情けなく悔やみながら取り組んでいたものだ。厳しくて堅物、そんな父が私は大好きだった。そうだ、父の子育てについて書いてみることにしよう。

私が子供の頃、父がすべての決定権を持ち、絶対的存在だった。兄や弟は休日になれば父の田んぼ仕事を大人同然に手伝い、指示通りにできなければ厳しく叱責されていた。男の子に生まれなくてよかったと叱責されている兄や弟を見て心底思ったものだ。しかし、兄も弟もすねたり逆ギレすることなく、その厳しい叱責に耐えていた。いや、本当に耐えていたのは母かもしれない。かわいそうだと助け舟を出そうと口を挟むと、「うるさいっ」と逆に母が怒られる始末。現代なら、児童虐待、モラハラなどと騒ぎ立てられるかもしれない。でもどうしてだろう、そんな頑固な父を家族全員が本当に大好きだった。父への信頼や存在感の大きさは言葉では表しきれない。大人になって今思うと、その厳しさは仕事に対する心構えなどを不器用ながらに父は教えてくれていたのだろう。今、自分自身が親という立場に立ってわかったが、我が子を全力で叱ることは本当に難しい。どうやったらあんなに気持ちいいほど全力で叱ることができるのだろう。先日、子育てについて「怒る」と「叱る」の違いは何か、という興味深い内容の記事があった。イライラした感情をそのままぶつける「怒る」と、子供の成長を思って「叱る」のでは全く違うというものだった。父は一見厳しく堅物ともとれるような素振りでありながらも本当は心にゆとりのある「叱る」という方針で子育てをしてくれたのだろう。さて自分はどうか、その場しのぎで余裕もなく感情で「怒っ」ていることが多いのではないか。きっとまた父は、懲りない奴だと呆れているに違いない。

厳しい父であったが、穏やかな一面もあった。食事の時は父の話聞くのが楽しみであった。今日は何の話をしてくれるんだろうと思っていると言葉巧みに、昔話やことわざなどを私たち家族に教えてくれるのだ。そのうちの一つに『実るほど頭を垂れる稲穂かな』というものがある。稲が成長すると実を付け、その重みで実(頭)の部分が垂れ下がってくることから、立派に成長した人間、つまり人格者ほど頭の低い謙虚な姿勢であるということの意味することわざである。このことわざを「昔の人はよく考えたもんやなあ」と感心しながら何度も何度も話してくれていた。いつかはそんな人間になれたらいいなと思うようになった。子供だった私が大人になって、今度は孫にあたる私の子供たちにも何度も何度も話してくれていた。

そんな父が、何の前触れもなくあっけなくこの世を去ってしまった。どこをどう探しても、もういない。そんなことを考えながら、寂しくも慌ただしく過ぎていく日々。ある時息子との会話の途中で、「お母さん、おじいちゃんとおなじことゆうとる」と言われ、ふと気づくことができた。そうだ、ちゃんと私の中で存在している。心にゆとりのある子育てをしていけるだろうか、いや、していこう。遺影に向かうと、しっかりしろよと言わんばかりの表情の父がこちらを見ていた。





ピンチの時こそチャンスと考えよう！

難波 義博

一年余り前に中国で新型コロナウイルスが見つかったというニュースを見て、今日のこのような状況に見舞われることになるとは、一体誰が想像したでしょうか。

感染拡大に伴い、マスク着用、距離をとる、時間を短くするなど、中学校生活においても友達と楽しくおしゃべりしたり、ジャレ合ったりすることすら気を遣わなければならなくなりました。誰も十分な知識を持たないまま、いろんな憶測やデマが入り乱れ、みんなのやさしい心が大きく傷つきました。

3年生においては、特に修学旅行をはじめ、体育大会や合唱コンクールなどの開催が危ぶまれ、中学生としての大切な思い出づくりが心配されたところでした。しかし、先生方や関係者のご努力で何とか実施され、ただ感謝するしかありません。

今後ワクチンの接種が進んだとしても、世の中でコロナを完全に抑え込むのは不可能というのが専門家の見方です。そうなれば、これまでの社会常識が通用しなくなり、新たな生活様式を編み出していかなければなりません。いろんな苦痛が生じ、煩わしさも出てきます。でもこのピンチの状況を後ろ向きに捉えるのではなく、新たなことにチャレンジしていく機会と捉えれば、きっと新しい社会がつかめると思います。

この困難なことを誰かに任せるのではなく、例え小さくても自分の力で取り組んでいくことによって、きっと自身の成長にもつながっていくはずです。10年経って今を振り返った時、あの頃はほんと大変だったけど、みんなが努力したお陰でいい世の中になったと言い合えることを願います。

一年を振り返って

平岡 靖浩

もうすぐ子供の3年間の中学校生活が終わろうとしています。長い義務教育もあっという間だったなと感じます。

一番大変だけど多くの経験をし、多くの思い出ができる内容の充実した最終学年の1年間になるはずが一変してしまいました。

コロナ禍の中多くの制約を受けながら送る日常生活。例年通りにいかなかった修学旅行や体育大会等の学校行事。4、5月休校で今まで頑張ってきた部活動が制限され、引退までの一番大事な時期に練習できないといった状況の中、子供たちは腐らずよく頑張ったと思います。

この1年間で例年では経験できないことを経験し、我慢することや状況の変化に対応すること、自分に関わる周りの人への気配り等、多くを学んだと思います。

4月からは、神河町の中だけでの環境からもっと広く大きい環境の中で新しい生活が始まります。たくさんの人と出会って、たくさんの経験を積んで夢と希望を持って成長してほしいと思います。

最後になりますが、コロナ禍で前例のない状況の中、子供たちのために部活動の最後の大会、修学旅行、体育大会等を開催してくださった先生方、本当にありがとうございました。また3年間ご指導いただきまして大変お世話になりました。



1年間、ありがとうございました。